

街の元気 ● みんなの元気を応援します

VIVACITY
ビバ
シティ

社団法人 石川県柔道整復師会



撮影 金沢北支部 中根 茂会員
使用カメラ:ニコンD300
使用レンズ:タムロンアスフェリカルU
D28~300マクロ
露出:セコニック単体露出計使用
1/100 F10 手動
ISO400 分割測光

[福寿草]
旧暦の正月頃に鮮やかな黄色い花を咲かせる福寿草。新年を寿ぐ花として古くから愛でられ「元日草」などのおめでたい別名も持っています。春先に花を咲かせ、夏まで葉をつけて光合成を行ったあとは地下で過ごす、典型的なスプリング・エフェメラル。あの眩しいほどのビタミンカラーは、暗い土の中で育まれるんですね。
可憐な姿に似合わぬ強い毒を持ちます。芽を出したばかりの頃はフキノトウと間違えやすいのでご注意を。

01
Vol.

2012
April

●特集

講演会＆研究会

いきいき健康社会を支えたい！



社団法人 石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限りない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。

ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し、技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

1 特集 講演会&研究会

学術講演会・県民公開講演会
会員学術研究発表
文化講演会&石川接骨みらい塾

7 SSI(サポート・接骨・石川)活動報告

①能登和倉万葉の里マラソン 2012
②第 52 回石川県防災総合訓練
③第 18 回石川県青少年空手道選手権大会

11 Member's Voice

随想 堂本 義邦

12 ほっとひと息 コーヒーブレイク

能登支部 濱 亮輔会員

13 トピックス

特集

seminar &
lecture meeting

講演会＆研究会 いきいき健康社会を 支えたい！

石川県柔道整復師会では、さまざまな講演会や研究会を通して会員の技術向上に努めるとともに、地域の皆さんに健やかではつらつとした毎日を送っていただくための情報を発信しています。

学術講演会・県民公開講演会

救急医から見た外傷、その疼痛管理

講師／金沢大学付属病院集中治療部長 谷口 巧氏

昨日、天皇陛下の手術が無事成功しICUに入られたことをニュースが伝えておりました。そのICU（集中治療室）が私の職場で、鎮静、鎮痛では最先端の部署です。柔道整復師会の皆さんの専門分野とは少し異なりますが、単純ではない痛みについて救急患者を例にお話をさせていただきます。

ケース 1

46歳男性。左肩が痛くなりレントゲンを撮ったところ異常がなく、寝違いからくる肩痛と言われました。通院していくたん良くなつたのですが、また非常に激しく痛み出しました。ここで注意していただきたいのは、肩が痛くても、原因は肩だけではありません。ケース1のこの方は急性心筋梗塞でした。

複数の損傷がある場合、原因と違うところで痛みを感じることがあります。



参加者の関心も高く、講師への質問も。



一般の方も含む約250人で会場は満席。

ケース 2

46歳男性。通勤途中にバイクにひかれたのですがさほど痛みもなく、そのまま出勤し一日中仕事をしました。左のわき腹を押さえると痛いのですが大したことはなく、帰りに病院に寄つて、その晩、自宅で亡くなりました。神経は痛みを感じると、逆にその痛みを抑制する刺激が出て自覚がない時があります。その人は脾臓破裂でした。

ケース 3

40代男性。仕事中、首が痛くなり肩も凝つきました。休憩をしたら楽になったのですが、また痛くなつたので帰りに某医院に寄り、待合室で意識がなくなり救急車で搬送されました。脳血管障

害のくも膜下出血でした。嘔吐を伴う激しい頭痛が典型的な症状ですが、後頸部が硬くなり痛みが出る場合もあります。

ケース 4

82歳女性。腰痛、下肢の痺れで治療院で電気治療中、突然意識を消失しました。その方は、冬に多い急性大動脈解離でした。大動脈が破裂すると心筋梗塞などで死に至る場合があります。その多くが背中や胸の激痛、足の痛み、痺れを感じます。

今日は注意が必要な患者さんの例についてお話ししました。このような事態はしおちゅう起こるものではありませんが、一度ならず遭遇する可能性があります。町の開業医がどんどん少なくなっている現在、皆さんの接骨院でも患者さんはさまざまなお痛みを訴えると思います。患者さんが痛いと言うその部分だけでなく、それ以外の痛みの具



■谷口 巧
(たにぐち たくみ)

[プロフィール]
金沢大学医学部卒。
同大学博士課程、医学研究科外科学修了。
日本麻酔学会所属、
日本救急医学会評議員、日本集中治療学会評議員等を務める。
日本集中治療学会優秀論文賞等の学術賞を多数受賞。

合も調べてください。状況をみて必要ならば躊躇せずに救急車を要請してください。そして救急車が来るまでの間、救命措置ができるような技術を身につけておくのも良いことです。それによって回避できる危機があると思います。(要旨抜粋)

●平成24年2月19日(日)、石川県地場産業振興センター新館で行った学術講演会から抜粋しました。

会員学術研究発表

「脳神経外科への紹介」

加賀支部 高熊 二夫会員

キーワード

名前が書けない 脳梗塞 分回し歩行 痙性跛行 単麻痺 脳腫瘍

目的

初検時に柔道整復の業務範囲外であるとして脳神経外科へ転医した2症例を報告する。転医する理由となった特異な所見と再来された患者自身の言葉を紹介し、若干の考察を加えたい。



症例1●70代女性

【主訴】右の手と足の動きが硬い。車の運転をする自信がない。

【特異所見】自分の名前「松」の第一画しか書けない。

【考察】脳梗塞の特徴的な症状と主な症状。

症例2●60代女性

【主訴】右脚がこわばり歩きにくい。

【特異所見】ぶん回し歩行、痙性跛行、単麻痺。

【考察】跛行とは、歩行パターンと速度の異常。跛行の分類。

まとめ

症例1の「名前を書けない」方は脳梗塞で入院加療した。症例2の「分回し歩行、痙性跛行、単

「麻痺」という珍しい組み合わせが初発症状であった方は、肺ガン転位による脳腫瘍であった。

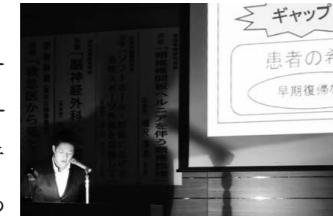
2つの症例とも脳神経外科を直ちに受診するようお勧めをしたが、共通する最初の受診先では

「ソフトボール、野球における急性スポーツ外傷を経験して」

加賀支部 堀松 郁子会員

要約

長年、地域スポーツ活動のソフトボールに選手、施術者の両面から携わっており、今まで経験したソフトボール及び野球競技中の急性外傷症例を挙げて、超音波観察とともに述べる。



はじめに

経験した外傷の中で特に、私と患者との判断のギャップを埋め、かつ患者理解を得られ信頼を獲得した症例を報告する。

「頸椎椎間板ヘルニアを伴う頸椎捻挫」

金沢南支部 柳沢 昌孝会員

はじめに

今回、頸椎椎間板ヘルニアを伴う頸椎捻挫にて、頸部徒手矯正により良好な結果を得たので報告する。



著変無しとの診断であった。今回のように特異な症状・所見を認めた時には、適切な提携先・医療機関を選択し、紹介状を発行すべきだったと反省している。

症例

- ① 12歳男性…前腕骨両骨骨折
- ② 65歳男性…大腿部打撲
- ③ 44歳男性…下腿部筋挫傷

まとめ

医師の指示を仰ぎ、レントゲン撮影と当院での超音波観察を合わせて行いながら受傷程度や治癒経過を観察できることによって患者の理解を得られたばかりでなく、超音波治療においては的確な照射位置、周波数や出力設定を行うことができ、効率的な施療が可能だった。超音波観察装置は柔道整復師の資質向上や触診の補助として、またインフォームドコンセントのツールとして期待が高い。

今後、スポーツ現場では初期処置の重要性を啓蒙し、接骨院においては適切なインフォームドコンセントを行い、患者の施療に対する理解を得て、選手が少しでも早く競技復帰できるよう貢献したいと思う。

方法

手術適応と診断を受けた症例で「様子をみる・本人の希望で手術はしない」の数症例を挙げて考察を加える。

症例1●35歳男性

【原因】首の体操のつもりで回旋運動をしていたらピキンとなり痛みが走った。

【徒手検査】パルサルバ検査陽性

症例2●31歳女性

【原因】荷物を持ち上げて移動しようと捻じった時にピキンと音がして首が動かせなくなつた。

【徒手検査】左小指側に知覚鈍磨・パルサルバ検査3日目に陽性・嚥下テスト陽性

症例3●49歳女性

【原因】10日ほど前に腕を高く挙げて高い所の荷物を横に移動していた時ズキンとなった。某接骨院で施術を受ける。

【徒手検査】他動的に拳上痛・運動制限なし・右小指側鈍磨・パルサルバ検査陽性・握力の左右差は右12キロ<左34キロ

考察

頸椎の頂点は頸椎第4・5番で、ストレスは第4・5間、第5・6間に最もかかり、変形や椎間板ヘルニアなどの原因の一つとなり、生理的前湾の消失から少しの外力でも捻挫を引き起こし易いと考えられる。このことから、頸椎を生理的前湾に近づけることで症状消失の良い結果が得られるのではないかと推察し、愛護的な頸部徒手矯正と意識改善・姿勢改善のために筋力強化運動を施行した。ヘルニアは頸椎前屈位にて頭の重み、支えようとする突き上げ力、そこに外力も加わり後方

に押し出そうとする椎間板内圧が働き、突出するものと考える。であるならば頸部徒手矯正にて後屈位を矯正していくことが椎間板内圧を陰圧にし、ヘルニアの症状の消失に効果があったのではないかと考え、頸部徒手矯正はとても良好であると思われた。

結語

1. 頸部徒手矯正はとても有効であると思えた。
2. 医接連携を念頭に置き、患者との信頼関係を続ける必要がある。



左から柳沢会員、堀松会員、木山会長、高熊会員。

●平成24年2月19日(日)、石川県地場産業振興センター新館で行つた研究発表の要旨を抜粋しました。

金沢南支部 学術講演会を開催 『スポーツ障害』

金沢南支部では平成24年1月29日(日)、金沢医科大学の羽藤泰三医師を講師に学術講演会を開催。「スポーツ障害」と題し、前半は腰部脊椎障害、後半は野球時の肩関節障害についてご講演いただきました。

脱出した腰椎椎間板ヘルニア腫瘍は周囲に肉芽が形成され、その肉芽の血管から遊走した貪食細胞によって貪食されて、約3ヶ月でヘルニア腫瘍が消失する場合があります。腰椎分離症はMRI検査により分離初期段階時に早期発見し適切な治療を行えば分離しないで改善します。

肩関節の運動痛は、肩甲上腕リズムを正常な状態に改善させれば治療効果も高い。ただし子どもの場合は、障害が起らないような指導とかしこい手抜きを、そして学童期は技術よりも心・礼儀に重きを置いて指導した方が良いなど、大変興味深い内容でした。

講師 ●金沢医科大学整形外科脊椎外科
羽藤 泰三医師

スライドには羽藤先生が尊敬する漫画家小林まこと氏の「柔道部物語」の主人公 三五(さんご)選手がたびたび登場。「彼の重心の取り方、膝と腰の角度こそが腰に負担のかからない最良の姿勢」だと絶賛するなど、笑いの中に価値のある情報が散りばめられた講演会でした。



終始和やかな雰囲気の中、講演が行われた。

文化講演会 & 石川接骨みらい塾

放射線の知識や東日本大震災の被災地の状況などをテーマに一般の方を含む約100名の参加があり、会場からあふれて立見が出るほど高い関心を集めました。



第12回
文化講演会

放射線の正しい知識

～生物・人体に与える影響について～

講師／金沢医科大学准教授 石垣 靖人氏

最初に、東日本大震災により被災された皆さんに心からお見舞い申し上げます。3月11日、アメリカに滞在していた私が東日本大震災の発生を知ったのは、テレビで見た仙台空港の津波映像が最初でした。一生に一度あるかないかの大災害に体が震えたのを覚えています。その後アメリカでは原発事故の状況も日々的に報道され、日本は一体どうなるのかと大きな不安を抱えて帰国しました。



講師の説明を受けた後、機器を使って放射線量を測定してみる。

帰国した私は、文部科学省等の依頼により6月からボランティアとして福島・宮城へ赴き、環境中の放射線量を測定する作業に加わりました。福島県を中心に空気中と土壌の放射線量をしらみつぶしに調査し、最終的な調査結果は文部科学省のホームページに公開されています。今後は除染と汚染物の処理、そして健康被害調査が



■石垣 靖人
(いしがき やすひと)

[プロフィール]
金沢大学薬学部卒業。Rosell Parkがん研究所、Rochester大学歯学研究員、金沢医科大学准教授兼放射線取扱主任。日本放射線影響学会及び日本放射線安全管理学会員。

大きな課題となってきます。これからも復興に向けて継続した支援が必要だと思います。

放射線は「色」や「臭い」などの五感で感じることができません。サーベイメーターという装置によって検出が可能になりますが、元々地球上のあらゆる場所に放射線は存在しています。先日も世田谷で線源が発見されて話題となりましたが、正確なサーベイメーターは高価なもので、正しい測り方の知識や経験が必要です。また放射線の防御には、その場からなるべく離れる（距離）、遮蔽物を間に置く（遮蔽）、時間を短くする（時間）の三原則があります。

高い放射線量を被曝した時の人体への影響は広島・長崎の原爆の調査によってよく分かっています。しかし放射線量が低い場合、遺伝子が傷ついて癌や免疫力の低下、不妊などの病気になる可能性があることはわかっていても、どれだけ



放射線について正しい知識を持つことが、風評被害をなくすことにつながる。

の量を被曝したら人体に影響があるのか不明な点も多いです。少なくとも害があるという説、ある量を超えるければ無害だという説、微量な

放射線はむしろ人体に良い影響を与えるという説など様々な意見や議論がありますが、低線量被曝の人体への影響については、学術的にまだよく分かっていないと言るのが正しいと思います。このような点を明らかにするためには、さらなる研究が必要になると思いますので、皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。

(講演要旨)

第6回
石川接骨
みらい塾

東日本大震災ボランティア活動について

～私たちが出来る事・伝えたい事～

昨年、5月23日から27日まで、当会が宮城县で実施した東日本大震災ボランティア活動の参加会員の中から、岡本透会員を司会進行に、川本力雄会員、坂田浩之会員、東勝一会員、北川恵理会員の4名がパネリストとなり、石川県看護連盟副会長・金沢市議会議員の久保洋子氏をゲストに迎えてパネルディスカッションを行いました。

大震災から2か月が過ぎてもどこまでも続く瓦礫の山、強烈な悪臭、テレビの映像とは比較にならないほど凄まじい状況の中、東松島市・松島町・美里町の各避難所で被災者144名のケアボランティアにあたった体験をもとに、参加した皆さんから伝えたいことが発表されました。

岡本会員の進行で被災地での体験を語るパネラーの皆さん（左から坂田会員、北川会員、東会員、川本会員、久保市議）。



スクリーンに映し出される写真を見ながら被災地の状況を説明する。

パネリストからのひと言

- あまりボランティアをしたことはなかったが、テレビを見てじっとしていられなくなり参加した。行って良かった。今後も続けていきたいと思っている。
- 避難所では被災者の方に感謝され、逆に励まされた。被災者の方に寄り添う気持ちが必要だとわかった。
- 本当に気持ちがなければできないことだが、どんなことでもいいからぜひ参加してほしい。その中で自分が学ぶことができる。
- 1000年に一度の大震災といわれるが、その中で人と人の絆を感じられたし日本人の誇りを再確認できた。ぜひ被災地に足を運んでください。

●平成23年11月6日(日)、石川県地場産業振興センター本館で開催した講演会およびシンポジウムの内容を抜粋して掲載しました。

SSI活動報告①

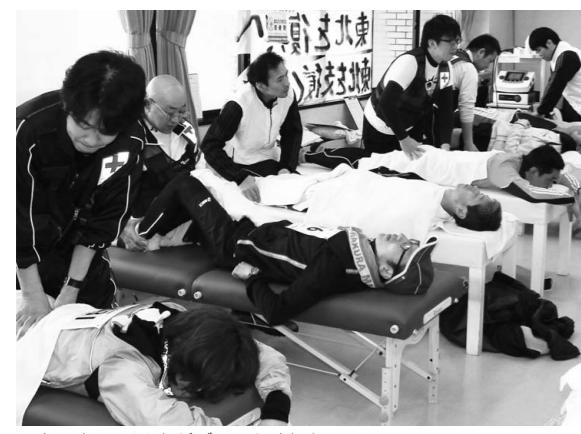
能登和倉 万葉の里マラソン2012

平成24年3月11日(日)、七尾市で「能登和倉万葉の里マラソン2012」が開催されました。今年も七尾市からのケアサポート要請を受け、本会会員を中心に北信越柔整専門学校の碓井貞成校長はじめ45名でケアサポート・ボランティアを行いました。

■絶好のコンディションでスタート

リピーター参加者が多いと言われるこの大会も今年で4回目になります。第1回大会からずっとケアサポートを行なっている当会の存在は選手たちによく知られており、ブースが設営された和倉観光会館2階会場には早朝7時から選手が訪れ、次々とテーピング、ストレッチなどのコンディショニングを行いました。

心配された天候もフルマラソンがスタートする10時頃には快晴となり、気温も10度まで上がり、絶好のコンディションとなりました。スタート前に集中したサポートを受ける選手たちも各部門のスタート後はすっかり途切れ、お昼は交替で主催者の用意した牡蠣鍋を食べに行き「最近のランナーはオシャレだね」などと余裕の会話を交わしていたのですが…。



過去最高の483名がブースを訪れた。



■午後、気候が急変！

午後になると、快晴だった空に突然暗い雲が現れ、強い風と大粒の雨となり、気温も急激に零度まで下がって雨はそのまま雪に変わってしまったのです。強い風と雪は瞬く間に、選手の体力と体温を奪ってしまいました。

1階の救護班から、全身の震えで動けなくなつた選手が担架に乗せられて運ばれて来たのを皮切りに、続けざまに低体温症の選手が運び込まれました。さらに時間がたつと、階段の途中で歩けなくなつた人や自力でケアブースまで来たものの両足がつって動けなくなる選手などが続出してたちまちベッドが一杯となり、外にはケアを受けに来た選手が長い列をつくってしまいました。「野戦病院みたいになってきたぞ」という声が出るほどの状態となりました。

そこで特別チームを再編成。低体温症の選手には何人かの会員が付いて濡れた服などを着替えて、バスタオルで全身を覆いスチーム温熱

器で体を温めるなどのケアを行い、自分で歩ける選手には、廊下にシートを並べベースの外でテーピング、ストレッチなどを行いました。協力業者の方々も一緒になって選手を運び、温熱器を操作し、さらには救護班のドクターもブースに来て搬送されてきた選手の脈拍や心拍を診たりと、その場にいた全員が一丸となってケアにあたり、大変な状態を乗り越えました。

一日が終わってみればトレーナーブースには過去最多の483名の選手が訪れ、サポートを受けた選手はもちろん、主催者や関係者、関係団体の皆さんからもたくさん感謝の言葉をいただきました。

最後に、ちょうど1年前のこの日に発生した東



〈施術データ〉

参加選手数	ケア人数	利用率
7547名	483名	6.4%
男	女	競技前後
男232名	女251名	前212名 後271名



日本大震災で犠牲になられた方々に全員で黙祷を捧げ、被災地の復興を祈りボランティアを終了しました。



ケアを受けた選手より

10km完走 29歳・女性(大阪府在住)

介護の仕事をしていて練習ができるぶつけ本番となりましたが、テープをもらい、お陰で完走できました。うれしかったです。

フルマラソン出場 58歳・男性(東京都在住)

前半の景色はよかつたけれど、寒さで足が動かなくなつて36キロでリタイヤしました。自分で帰れるか心配でしたが、ケアしてもらったお陰でなんとか歩いて帰れそうです。

フルマラソン出場 23歳・女性(茨城県在住)

昨年の地震で家は大丈夫でしたが、余震はずっと続いている。去年キャンセルしたこの大会に、今年は来れてよかったです。完走できなかつたけど、皆さんには本当に良くしていただきました。ありがとうございました。

【サポート活動参加者】

堂本義邦・錦川孝彦・山田俊志・坂下竜彦・高 茂則 中野秀人・波佐谷兼潤・百谷 実・大森宣養・二又俊孝 赤池敬順・梶 雅彦・干場和規・山田 誠・西 敏男 濱 亮輔・道下和也・溪口 誠
(以上18名、能登支部)

嶋谷 清・中田健市・佐藤裕之・中村茂之・中谷 博
(以上5名、加賀支部)

大徳 勇・ニッ谷剛彦・金田豊茂・真酒谷清・嶽与志藏 磯松俊也
(以上6名、金沢北支部)

山下純二・西川典孝・木山隆久・東 勝一・西本正幸
(以上5名、金沢南支部)

【北信越柔整専門学校】

碓井貞成・山田駿・上濃達郎

【協力業者】

重島医療器・伊藤超短波(株)
直本工業(株)・ I.P.S

SSI活動報告②

第52回石川県防災総合訓練

平成23年11月23日(水・祝)、石川県西方沖でM7.8の地震が発生し加賀に大津波警報が発生したという想定で、加賀市一円の6会場で「石川県防災総合訓練～日ごろから災害に備えよう～」が行われました。



谷本知事が訓練の視察に。当会のブースにも立ち寄られ、激励の言葉をいただいた。

この訓練は石川県地域防災計画及び加賀市地域防災計画に基づき、県内外の防災関係機関及び地域住民参加のもと実施される総合的な防災訓練で、防災活動に関する責任の自覚と技術の向上を図るとともに、広く県民に防災意識の高揚を図ることを目的としています。

石川県柔道整復師会からは加賀支部の日本赤十字奉仕団員8名が参加、午前8時に橋立小学校体育館に集合し日本赤十字石川県支部のAED体験訓練所の隣に救護所を設置し、避難住民に対する救護・ケア活動訓練を行いました。

参加した住民に前腕骨骨折、下腿骨骨折、捻挫等の処置の仕方など、ケガをした時の対処をわか



自衛隊も参加する大掛かりな訓練が繰り広げられた。



聴覚障がいの方には骨折した場合の対処法を手話をして解説。



りやすく丁寧に説明。生活の中で使用できる材料を用いて固定などを経験してもらいました。一般的の参加者の中には、聴覚障がいの方々や外国人、小学生も訓練に参加されました。

訓練を視察された谷本正憲石川県知事が我々のブースに立ち寄り骨折の処置を見学された際は、嶋谷清副会長、中田健市加賀支部長が救護訓練について説明。知事からは「能登半島地震や東日本大震災時の救護ボランティア活動に対して感謝します。これからも災害時には力を貸してほしい」と激励の言葉がありました。



本会が毎年参加しているこの訓練は、災害応急対策や防災意識を地域住民に普及するうえで大きな役割を果たすとともに、地域の皆さんに柔道整復師の業務内容を知っていたら良い機会となっています。さらなる技術の向上を目指し災害応急対策に万全を期していきます。

加賀
支部

石川県防災総合訓練に向けた事前勉強会を実施

8月24日(水)、石川県防災総合訓練に参加する加賀支部会員6名で事前勉強会を実施。当日の訓練の中で骨折・捻挫・挫傷等を負った要救護者に施す処置として、生活の中にある段ボールや買い物袋、新聞紙などを使った方法、また障がいを持つ方や外国人への対応について確認しました。



当日の処置や段取りを確認した。

SSI活動報告③

第18回石川県青少年空手道選手権大会



子どもとは思えない! 激しい試合。

平成24年3月11日(日)いしかわ総合スポーツセンターにて開催された青少年空手道選手権大会に、救護として西川典孝SSI副委員長が派遣されました。

この大会は、幼児から高校生までが男女別・学年別(高校生は体重別)等の各クラスに分かれてトーナメントにより行われ、参加選手約330名が熱き戦いを繰り広げました。サポート接骨石川(SSI)が救護を担当し、主な救護者は突きや蹴りによる打撲、四肢の捻挫、筋挫傷等でした。

IST(石川県スポーツトレーナー連絡協議会)総会開催される

平成23年度

ISTの平成23年度総会・講演会が3月18日(日)ホテル金沢で開催され、医師や柔道整復師、理学療法士、鍼灸師など認定会員43名が出席しました。講演会はいしかわ総合スポーツセンタースポーツ科学課主任研究員の花岡美智子氏による『勝つためのアスリート食』。アスリートとして力を発揮するうえで基本となるのが食。勝つための身体をつくる食の考え方や食習慣について詳しくご講演いただきました。

総会では平成23年度事業報告・中間決算報告、平成24年度事業計画・予算が可決され、懇親会では柱山嗣廣県体育協会専務理事が挨拶し、県体育事業への協力を呼び掛けられました。



講師の
花岡美智子氏



IST認定会員43名が出席。

ケアサポート活動に想う

~能登和倉万葉の里マラソン Memory ~

能登支部 堂本 義邦

未曾有の震災からちょうど一年となる3月11日、万葉の里マラソンが行われ、この大会としては4回目のサポート活動の日となった。午前6時、天候を気にしながら朝食を。前日、県内各地より集結した会員たちと綿密な打合せを行い心地よい疲れが残るなか、サポート会場となる和倉観光会館へ。

午前中に押し寄せる選手達。少しパニックになりながらも、テープング・ストレッチ等のメンテナンスを施し約200名のサポートを完了。その後ゴールしてきた選手達を的確に処置し時間が過ぎていく。

午後から天候が急変し、雨・霧・雪・台風のよう



緊迫した状況もある程度は想定していた。事前の準備とチームワークで乗り切る。

な冷たい風に不安がよぎる。「うむっ!!これは…また例年の如く…やっぱりきたか！」。しばらくして、救護所の医師の指示で低体温症・全身痙攣・下肢痙攣などの選手が、救急隊員によって搬送されてきた。想定内のできごとだったので、選手を観察し適切に対処、準備していた機器を使用しスタッフのケアによる素早い回復に努めるが、一部備品(温熱)の準備不足に反省。

その後回復した選手達に「大丈夫ですか？」と声をかけたところ、次のように答えてくれた。

- お陰さまで何とか一人で運転して家に帰れます(50代男性)。
- このまま息を引き取るかと思いましたが、皆さんのお陰で元気になりました(40代男性)。
- マラソンをして初めての経験です。皆さんには言葉だけでなく施療代も貰って頂きたいくらい(60代女性)。
- 次は寒さ対策をして走ります(20代男性)。
- 毎年、お世話になり感謝します(第1回大会でも搬送してきた常連選手・30代男性)

今年も483名の選手をケアし、少し自信につながった。選手からの感謝の言葉ややり遂げた充実感は自分にとっての糧となる。参加してくれた皆さんも充実した活動ができたと思うし、その活動に感謝しています。

この大会で得るものは接骨院内で得るものとはまた違う、価値ある経験ができる。そしてこの「価値のある経験」を積むチャンスは毎年やってくるのだ。その度に新しい経験が積み重ねられて大きく膨らんでいく。自分も若い時にこんな経験をたくさんできたら、もっと違う価値観になっていたかと思うが、今からでも遅くない!もっともっと夢を見て突き進んでいきたい。大きな「震災」の後、まだ残る「心災」。自分の道で少しでもみんなを笑顔にしていきたいと改めて思う。

サポート活動を行う各大会には、支部に関係なく多くの会員のご協力・ご支援をお願いします。

感謝



コーヒーブレイク

ふるさと珠洲は

僕たち一家の 幸せの舞台

昨年7月に結婚された能登支部の濱亮輔会員に新婚生活について聞きに行ったところ、ふるさと珠洲への思いをアツく語ってくれました。

<平成23年11月取材>

—地元の生徒さんだけのチームで決勝まで進むとはすごいですね。

珠洲の「塩サイダー」が全国で販売されて1年間で25万本も売れる大ヒット商品になったように、子どもたちには、珠洲にいても自分たちでできることがたくさんあることを知ってもらい自信をつけてほしいですね。そしていつか、珠洲から全国に向けていろいろなことを発信していきたいと思っています。

—能登は少子高齢化で大変ですが、お互いに頑張りましょう。

はい。春には子どもも生まれますので頑張ります!



浜接骨院

珠洲市上戸町北方2-77-1
TEL(0768)82-4858

トピックス①

健康柔(やわら)体操を ケーブルテレビで紹介

平成23年11月29日(火)午後5時30分から放送される金沢ケーブルテレビの「まちスタ530」に本会の健康やわら体操普及委員が出演し、健康柔(やわら)体操の紹介を行いました。

錦川孝彦委員長をはじめ真酒谷清、北浦健司、丸田克幸、森田淳、川村三紀の各委員が出演し、まず錦川委員長が番組MCと質疑応答の形で健康柔(やわら)体操が行われるようになった経緯や現在の活動について紹介。その後、北浦委員、丸田委員が柔道着姿で体操の基となってい、る柔道の形を実際に投げて披露しました。続いて普及委員会メンバー全員でMCの方と一緒に、体操の動作目的と身体的効果について解説を交えながら健康柔(やわら)体操を実演しました。

生放送ということで緊張はありましたが、各委員とも体操の内容を熟知したベテランです。実技指導にMCとのやり取りも和気あいあいと収録を終えることができ、健康柔(やわら)体操を多くの方々にアピールすることができました。



番組をとおして体操の健康効果をアピール。



一つひとつの動作の意味を解説しながら実演。

トピックス②

能登支部が日赤救急法 基礎講習会を実施

5年前の3月25日、穴水町・輪島市・七尾市を中心に発生した能登半島地震の記憶もまだ生きる。昨年3月11日、東日本大震災が発生し、マグニチュード9.0の地震と津波で壊滅的な被害をもたらしました。「いつ発生するかわからない災害や事故に遭遇したとき、柔道整復師として質の高い救急活動ができるようにしたい」という堂本義邦支部長の提案により、1月15日(日)、日赤救急法基礎講習会が開かれました。

能登支部だけでなく各支部からも合計40名の会員が参加、心肺蘇生やAEDを用いた除細動・気道異物除去などの救命手当と、急病・傷・骨折の手当・運搬などの応急手当について、学科と実技を4時間にわたり学びました。

救命法は3年ごとに見直しがされており、人工呼吸についても「知っていた方法が古かった!」と驚きの声が聞かれました。それだけに最新の救命法と救急法を身につけたことは、会員にとって大きな自信になったと思います。講習会の最後に行われた学科検定にも全員が合格、無事受講終了証を受け取りました。



自分が身につけている救急法が古い場合も。

◆東日本大震災から1年が経ちました。「震災」の傷もまだますが、それ以上に「心災」が復旧するまでには何十年と掛かると思います。いつかは笑顔になれるよう、我々も日々努力し国民の笑顔のため頑張っていきたいと思います。

◆公益化に向けて広報誌を再編成し、2部構成としました。公益性に鑑み、広く一般の方に我々の活動を紹介する『ビバ・シティ』を創刊し、会員に伝えるべき情報は『石整広報』で届けてまいります。

◆『ビバ・シティ』には学術的発表や講演会、講習会、また各支部やSSSI活動の話題を中心に掲載し、各種団体や行政機関にも配布します。待合室などに置いて患者様にも見ていただければと思います。会員の皆さんの趣味やさまざまな活動、随想録など思いのこもった記事も掲載したいと思いますので投稿をお待ちしています。

◆能登和倉万葉の里マラソンでは年々サポートの質が向上し、選手からの評価も高まっています。その声に応えるため、さらなる資質向上と皆さんのご協力が必要となりますのでよろしくお願ひいたします。

(佐藤 記)

◆「ビバ・シティ」をご覧の患者さま！はじめまして。この情報誌は社団法人石川県柔道整復師会が、患者さまにとっでも役に立つ分かりやすい内容の健康情報誌をめざして発刊いたしました。お読みいただきたいがでしたか？皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。

◆巻頭特集の「講演会&研究会」では、当会が行った県民公開講座や会員学術研究発表を紹介しました。この講演会や研究発表の重要な意義のひとつに「医接連携（いせつれんけい）」があります。これは各科の専門医と接骨院が連絡を取り合い連携することにより、患者さまにとって一番良い方法で対応することをいいます。接骨院に苦痛を訴えて来院される患者さまの中には重篤な病状が隠れている場合があり、接骨院ではそれを見逃さないように「理学的検査」や「神経学的検査」、「超音波観察装置」等を駆使してより深い検索を行います。これにより、来院された患者さまを自分の接骨院で対応できるのか、それとも専門医に委ねた方がよいのかという判断につなげていきます。このように、当会では地域の方々により安心して来院していただける体制づくりを行っています。

◆各種スポーツ競技会のサポート活動で何より励みになるのが、競技を終えた選手から感謝の言葉をかけられることです。能登和倉万葉の里マラソンでも競技前に不調を訴えた選手が、「おかげさまで完走しました！」と満面の笑顔で戻ってくるのを見ると、私たちの疲れもどこかに飛んでしまいます。来年出場予定の選手の皆さま、サポート会場でお待ちしております。

(錦川 記)

ビバ・シティ 第1号（平成24年4月20日発行）

■発行所／社団法人石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26

TEL076-233-2122㈹ FAX076-233-2196

E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

■発行者／木山 時雨

■編集者／佐藤 裕之・錦川 孝彦・中野 秀人・小松 英夫・中根 茂

橋本 大衛・太田 信幸・木藤 正幸・唐木 均・五十嵐 久智